



2023年1月
七尾市立図書館
友の会発行
責任者
芹田玲子

藤平さん熱く『旅』を語る

「本を読む仲間集い」で講演



藤平朝雄さんを講師に迎えて「本を読む仲間集い」が去る10月22日矢田郷地区コミュニティセンターで行われ、藤平さんは「半島と旅情文学 七尾湾岸うたの旅」と題して熱く語りました。「私には三つの宝『旅』、歌、酒がある」と藤平さんは旅

にまつわる歌として次の一首をあげました。「ゆく秋の大和の国の薬師寺の塔の上なる一ひらの雲」(佐々木信綱)。若いころ、藤平さんはこの歌を読んですぐ、ひとり奈良へと旅立ったそうです。その後も文学に親しみ、歌を口ずさみ、さまざまな場所へ旅をしてきました。

津軽半島をぐるり回って

太宰治の実家「斜陽館」に立ち寄った際には、小説「津軽」に登場した越野タケさん(太宰の子守)ご本人にお会いしたのが忘れられない出来事だったとか。「津軽」には、運動会の描写で家族が持ってきた弁当を囲むシーンがあ

ります。ここ中島町の「お熊かぶと祭り」で見た、参詣者が境内でご馳走を楽しむ風景も津軽のそれを思わせると頬をくずしました。

「伊豆の踊子」の残像を追って伊豆半島をめぐる話題の中で、修善寺にはご自身の祖母の家があり、そこには能舞台があると語りましたが、興味ぶかい話です。

話題は大伴家持の和歌に移り、「穴水湾に浮かぶ月がきれいで、思わず家持になつたつもりで眺めたが、わが身に返ったら恥ずかしくなつた」と謙遜されていました。藤平さんは今もなお万葉から始まる歌の旅を続けているようです。

年頭に当たって

七尾市立図書館友の会
会長 芹田玲子

明けましておめでとうございます。昨年の「本を読む仲間集い」講演会には、沢山の方々のご参加をいただき、改めて感謝申し上げます。今年もコロナ感染症に配慮して事業を行って参りたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

私事ですが長年、茶道を楽しんでいます。その初釜の床の間に必ず飾られるのが『結び柳』です。歳を重ねる毎に「今年もまた結び柳を拝見する事ができた」と茶席で感じるのは本当に嬉しい瞬間です。結び柳とは、旅立つ人を見送る際に、再会を期し柳の枝と枝を結び合わせた古代中国の風習に由来すると先達の茶人は伝えております。つまり、行く年から来る年の縁のつなぎを『結び柳』はしているのです。今年も皆様と良いご縁を結んでいけたら幸いです。



家持の巡行コースを質問する参加者



金沢に、フランス語でモーツァルトを意味する「モザール」という名曲喫茶があった。

私語厳禁のこの店は、コーヒ一杯で長時間ねばる猛者もいる、言わば音楽愛好家の道場だった。▼店主の鞍信一さんは県内にクラシック音楽を普及しようとして尽くした方である。図書館友の会50年史にも講演に来た記録がある。NHK金沢放送局でもリクエストを主とする音楽番組を担ったが、はじめは多かった希望曲もだんだん減って行き、とうとう番組終了となった▼丁度そんな頃に店へ行つた。あの番組をよく聴いたと言う私に、鞍さんの態度が一変する。怒りのわけもわからず困惑した。「リクエストしなかったお前のせいで番組がつぶれた」と言いたかったのだろうか：▼鞍さんは「大作曲家と珈琲」という本を書いている。ベイトーヴェンと珈琲と食べ物など、知られざる逸話が載った面白い本だが、鞍さんの無念を秘めて我が家の永久保存版である。T

ぐるーぷ紹介

ななお 音訳グループ

結成	1994年
例会	毎月 第2火曜 9:30~11:30
場所	ミナクル 第2会議室
会員	8名
活動	随時

ななお音訳グループは、図書館を拠点とした、目の不自由な方に文字を正確に音声でお知らせするボランティアグループです。

その完成までの流れは、辞書を引くなどの「下読み」から始まって、視覚障がい者専用の機器を使って「録音」、その後それが正しく読まれているかどうか別の人が「校

正」をします。それから聞く人の利便をはかるため、目次やページ付などを専用のソフトを使い、パソコンで「編集」します。このように数人のチェックを経てようやくCDへと完成します。

これまでカセットテープは九五タイトルCDは一四四タイトル作ってきました。今は定期的に毎月発行さ



元旦の永光寺 撮影/寺野時雄

雪やこんこん

ふと、しずかだなあといい、戸をあけるとしんしんと雪が降りつもっている。風のざわめきも人の声も、雪にすいこまれてしまうのか、雪が降りつもるときの不思議なしずかさ。とおい子どもの日の記憶の中で、いつもそんなふうに冬が来た。

雪が降ると、女の子は赤い花もようの大幅のネルを二つ折りにした三角布で、くるり

れる「図書館だより」を音訳しています。また、図書館友の会で発行された郷土図書館塚林康治さんの「ふるさと三部作」や坪井純子さんの「穂にいでずつっぱらめ」や「のとの昔話①②」なども音訳しました。希望があれば対面朗読もします。

ほかに、年一回、視覚障がい者の方々と交流会をしています。残念ながらここ三年コロナ禍で実現していません。はやく自由な交流ができるようになればと願っています。

と頭を包みこまれ、首の後ろでむすんでもらう。大きなほおずきになった気がする。その上で、新しいごき帽子をかむって雪の中へでかけた。い草のにおいがかすかにした。ラシャ地のマントもあったが、ごきぼしの方が楽しかった。サラサラ雪の日なら、ごきぼしの中の両手を、鳥の羽のようににはばたかせると、雪はかるくすべりおちていった。

坪井純子著
「杉谷ものがたり」より*

やってみんけ Let's try

	1			9	5		
2				5		7	4
7			8				6
		4			6		
6							9
			9			3	
	8				3		4
	9	1		4			5
		7	1				8

図は 2022,11.19 の北國新聞より引用

最近「数独」をやりはじめました。

新聞などで時折見かける、数字のパズルです。縦九列、横九列、合計八十一個の、ます目のところどころに数字が入っています。それを手がかりにして、あいていきます。ます目を埋めていきます。

数字が苦手なのでずっと食わず嫌いでしたが、たのしにやってみたら少しずつできるようになりました。あいているます目にぴったりの数字が見つかった時は

解答

8	1	6	4	7	9	5	3	2
2	3	9	6	5	1	7	4	8
7	4	5	8	3	2	9	6	1
9	5	4	3	1	6	8	2	7
6	2	3	5	8	7	4	1	9
1	7	8	9	2	4	3	5	6
5	8	2	7	6	3	1	9	4
3	9	1	2	4	8	6	7	5
4	6	7	1	9	5	2	8	3

スカッとします。お正月の新聞はいつもより厚く、ドサッと届きます。その中にはたぶんクイズ特集のページがあり、「数独」も載っているのではないかと思います。はじめての方向けに、ルールと解き方のコツも解説されていることでしょう。こたつに入りながら解いてみてはいかがでしょう。(菊)

* 「杉谷ものがたり」は七尾市立図書館友の会発行の「のとの昔ばなし第二集」に収められています。